

授業科目名	日本語文法研究(3A)
科目番号	02DT415
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春ABC 火3
担当教員	橋本 修
授業概要	現代日本語・古典日本語の文法論で近年扱われているトピックについて議論する。受講者のオリジナルな論考を提示してもらうこともある。
備考	2023年度より4年おき開講。 2023年度開講せず。
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	日本語文法論のうち、近年の意味論・語用論の動向を知り、各自の研究に生かせる形で理解を深める。
授業計画	第1回 背景的知識の確認・照合 第2回~第3回 丹羽哲也2010の講読、討議 第4回~第14回 受講者の発表・サーベイと討議 第15回 まとめ、情報提供
履修条件	
成績評価方法	発表、サーベイ、討議への貢献による。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	なし
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	日本語文法，意味論，語用論

授業科目名	日本語文法研究(3B)
科目番号	02DT416
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋ABC 火3
担当教員	橋本 修
授業概要	現代日本語・古典日本語の文法論で近年扱われているトピックについて議論する。受講者のオリジナルな論考を提示してもらうこともある。
備考	2023年度より4年おき開講。 2023年度開講せず。
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	現代日本語、古典日本語の文法論で近年扱われているテーマについての研究動向を踏まえながら、オリジナルな研究を組み立てる力、議論を行う力を身につける。
授業計画	第1回 背景的知識の確認、照合 第2回~第3回 大木一夫2008の講読、討議 第4回~第14回 受講者の発表・サーベイと討議 第15回 まとめと情報提供
履修条件	
成績評価方法	発表、サーベイ、討議への貢献による。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	なし
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	日本語文法論，日本語文法史，意味論，語用論

授業科目名	日本語文法研究(4A)
科目番号	02DT417
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春ABC 金5
担当教員	橋本 修, 矢澤 真人
授業概要	日本語意味論・語用論に関する動向を検討し、いくつかのトピックについて論考の検討・解説を行う。可能な範囲で他言語との対照も視野に含める。
備考	2019年度より4年おき開講。 2023年度開講せず。
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	日本語文法論、特に意味論・語用論について、当該領域の概観・問題点を探り、先行研究や自分の研究を適切に評価・検討できる能力を身につける。
授業計画	日本語の意味論、語用論を中心とした広義文法現象をあつかう。状況により応用的側面も扱うことがある。日程についても、受講者の学会発表等の事情で、内容の変更・扱う順序の変更の生じることがある。 第1回 ガイダンス 取り扱う資料の概観・検討・調整他 第2回 意味論1-1 南部智史2007のサーベイ 第3回 意味論1-2 南部智史2007を踏まえた、文法の計量研究についての検討・討議 第4回 意味論2-1 坂井美日2012のサーベイ 第5回 意味論2-2 坂井美日2012のサーベイを踏まえた、日本語準体法・名詞化表現についての検討・討議 第6回 意味論3-1 受講者からの提案と、それに対する検討・討議(1) 第7回 意味論3-2 受講者からの提案と、それに対する検討・討議(2) 第8回 意味論3-3 受講者からの提案と、それに対する検討・討議(3) 第9回 意味論3-4 受講者からの提案と、それに対する検討・討議(3) 第10回 意味論3-5 受講者からの提案と、それに対する検討・討議(4) 第11回 語用論1-1 太田垣2018のサーベイ 第12回 語用論1-2 太田垣2018を踏まえた、比喩と名詞述語文に関する検討・討議 第13回 語用論2-1 受講者からの提案と、それに対する検討・討議(1) 第14回 語用論2-2 受講者からの提案と、それに対する検討・討議(2) 第15回 まとめ・展望
履修条件	
成績評価方法	発表、討議への貢献、提出物により評価
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	事前に入手しておく文献はありません。 授業時に各種指示・紹介します。(各回の記述も参照)
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	日本語意味論, 日本語語用論, 談話文法, 文法史

授業科目名	日本語文法研究(4B)
科目番号	02DT418
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋ABC 金5
担当教員	橋本 修, 矢澤 真人
授業概要	日本語意味論・語用論における近年の論考を、方言・古典語等も視野に入れながら検討する。導入としては青木博史編2011所収の論文を検討する予定。
備考	2019年度より4年おき開講。 2023年度開講せず。
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	日本語文法論、特に意味論・語用論について、当該領域(副助詞句とその周辺)の史的再構、通時的变化を含めた概観を行い、現段階での問題点や今後の研究テーマの洗い出しを行って、各自の研究能力の向上に資する。
授業計画	第1回 ガイダンス 取り扱う資料の概観・検討・調整 第2回 意味論1-1 幸松英恵2015,2016のサーベイ 第3回 意味論1-2 幸松英恵2015,2016を踏まえた、推量形モダリティの検討・討議。 第4回 意味論2-1 参加者の提案と、それについての検討・討議(1) 第5回 意味論2-2 参加者の提案と、それについての検討・討議(2) 第6回 意味論2-3 参加者の提案と、それについての検討・討議(3) 第7回 文法史1-1 近藤泰弘2000(一部)のサーベイ 第8回 文法史1-2 近藤泰弘2000を踏まえた、中古語従属節のとらえかたについての検討・討議 第9回 文法史2-1 大野小百合1993のサーベイ 第10回 文法史2-2 大野小百合1993を踏まえた、諸方言の名詞化バリエーションについての検討・討議 第11回 文法に関する応用的研究1 第12回 参加者のオリジナル発表・討議(1) 第13回 参加者のオリジナル発表・討議(2) 第14回 参加者のオリジナル発表・討議(3) 第15回 まとめ・展望
履修条件	
成績評価方法	発表・討論への貢献、提出物を総合的に評価
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	テキストの事前準備は不要。各回の使用資料を授業時に決めながら選定する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	

ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	意味論, 副助詞, 形式副詞

授業科目名	日本語文法研究(5A)
科目番号	02DT419
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春ABC 金5
担当教員	橋本 修
授業概要	現代日本語の主として意味論・語用論・語彙論についての研究動向と研究課題について検討する。受講者による発表も行う。
備考	2020年度より4年おき開講。 2023年度開講せず。
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	意味論を中心とした日本語文法論の研究動向を把握し、適切な議論を行う能力を身につける。
授業計画	第1回 授業計画の説明、資料の紹介、受講者のバックグラウンド等とのすりあわせ 第2回 金水敏(2012)の紹介、検討 第3回 金水敏(2012)周辺の論考の紹介、関連する論点についての討議 第4回 加藤重広(2014)の紹介、検討 第5回 加藤重広(2014)周辺の論考の紹介、関連する論点についての討議 第6回 安部朋世(2014)の紹介、検討 第7回 安部朋世(2014)周辺の論考の紹介、関連する論点についての討議 第8回 西山佑司(2013)の紹介、検討 第9回 西山佑司(2013)周辺の論考の紹介、関連する論点についての討議 第10回 受講者による発表、討議(1) 第11回 受講者による発表、討議(2) 第12回 受講者による発表、討議(3) 第13回 受講者による発表、討議(4) 第14回 受講者による発表、討議(5) 第15回 まとめ 受講者のバックグラウンド・要望等により、取り扱う論考が変更になることがある。
履修条件	
成績評価方法	
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	初回~第3回授業時に説明、紹介する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチング	

アシスタント (TA)	
キーワード	日本語文法論, 意味論, 語用論

授業科目名	日本語文法研究(5B)
科目番号	02DT420
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋ABC 金5
担当教員	橋本 修
授業概要	現代日本語、古典日本語の意味論、語用論について、研究史を含めて検討する。受講者による発表も行う。
備考	2020年度より4年おき開講。 2023年度開講せず。 オンライン(同時双方向型)
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	現代語・古典日本語文法についての知識を深め、当該領域に関する適切な議論を行う能力を身につける。
授業計画	第1回 授業計画の説明、資料の紹介・説明、受講者のバックグラウンド等とのすりあわせ。 第2回 福嶋健伸(2014)の紹介、検討 第3回 福嶋健伸(2014)周辺の研究紹介、論点の整理、討議 第4回 井島正博(2002)の紹介、検討 第5回 井島正博(2002)周辺の研究紹介、論点の整理、討議 第6回 高山善行(2014)の紹介、検討 第7回 高山善行(2014)周辺の研究紹介、論点の整理、討議 第8回 江口正(2014)の紹介、検討 第9回 江口正(2014)周辺の研究紹介、論点の整理、討議 第10回 宮地朝子(2010)の紹介、検討 第11回 宮地朝子(2010)周辺の研究紹介、論点の整理、討議 第12回 受講者による発表・討議(1) 第13回 受講者による発表・討議(2) 第14回 受講者による発表・討議(3) 第15回 まとめ
履修条件	
成績評価方法	講義内容の理解、討議への貢献(質疑
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	初回・第2回授業時に提示する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー	

(TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	現代語文法, 古典語文法

授業科目名	現代日本語研究(3A)
科目番号	02DT445
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春ABC 水3
担当教員	
授業概要	現代日本語に見られる現象を題材に観察し分析するとともに、言語教育分野における課題と言語研究との関わりについて検討していく。
備考	2023年度より4年おき開講。 2023年度開講せず。
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	現代日本語に見られる現象を題材に観察し分析するための知識と方法を身につける。
授業計画	現代日本語に見られる現象を題材に観察し分析していく。今年度は、「格」に関わる現象を軸に検討を進める。 第1回 ガイダンス 第2回 日本語の「格」の研究の歴史(1) 主として国学流の文法論における関わる「てにをは」論を見る。 第3回 日本語の「格」の研究の歴史(2) 主として明治期の洋学流文典類における「格」の扱いを見る。 第4回 日本語の「格」の研究の歴史(3) 大槻文彦や山田孝雄, 松下大三郎, 橋本進吉など, 戦前の代表的な文法研究者の「格」の扱いを見る。 第5回 日本語の「格」の研究の歴史(4) 戦後の文法研究における「格」の扱いを見るとともに, 現在の課題について検討する。 第6回 日本語の「格」に関わる分析と考察(1) 現代日本語に見られる「格」に関わる現象の記述と分析を行う(受講者の発表を含む)。 第7回 日本語の「格」に関わる分析と考察(2) 引き続き, 現代日本語に見られる「格」に関わる現象の記述と分析を行う(受講者の発表を含む)。 第8回 日本語の「格」に関わる分析と考察(3) 引き続き, 現代日本語に見られる「格」に関わる現象の記述と分析を行う(受講者の発表を含む)。 第9回 日本語の「格」に関わる分析と考察(4) 引き続き, 現代日本語に見られる「格」に関わる現象の記述と分析を行う(受講者の発表を含む)。 第10回 日本語の「格」に関わる分析と考察(5) 引き続き, 現代日本語に見られる「格」に関わる現象の記述と分析を行う(受講者の発表を含む)。 第11回 日本語の「格」に関わる分析と考察(6) 引き続き, 現代日本語に見られる「格」に関わる現象の記述と分析を行う(受講者の発表を含む)。 第12回 日本語の「格」に関わる分析と考察(7) 引き続き, 現代日本語に見られる「格」に関わる現象の記述と分析を行う(受講者の発表を含む)。 第13回 日本語の「格」に関わる分析と考察(8) 引き続き, 現代日本語に見られる「格」に関わる現象の記述と分析を行う(受講者の発表を含む)。 第14回 日本語の「格」に関わる分析と考察(9) 引き続き, 現代日本語に見られる「格」に関わる現象の記述と分析を行う(受講者の発表を含む)。 第15回 日本語の「格」に関わる分析と考察(10) 引き続き, 現代日本語に見られる「格」に関わる現象の記述と分析を行うとともに, 全体の総括を行う(受講者の発表を含む)。

履修条件	
成績評価方法	出席,授業時の発表および期末のレポートにより総合的に評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	現代日本語，格，文典，てにをは

授業科目名	現代日本語研究(3B)
科目番号	02DT446
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋ABC 水3
担当教員	矢澤 真人
授業概要	現代日本語に見られる種々の言語現象について分析するとともに、文法教育と文法研究の と関わりについて検討していく。
備考	2023年度より4年おき開講。 2023年度開講せず。
授業方法	講義
学位プログラム・コン ピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修 成果）	現代日本語に見られる現象を題材に観察し分析するための、知識と方法を修得する。
授業計画	現代日本語における「を」格の明示と動詞の自他に関わる現象について検討する。 第1回 ガイダンス 第2回 春庭の自他研究(1) 本居春庭の『詞の通路』に見られる自他論について検討する。 第3回 春庭の自他研究(2) 引き続き、本居春庭の『詞の通路』に見られる自他論について検討する。 第4回 近代日本語研究における自他論(1) 明治期の文典類に見られる自他論について検討する。 第5回 近代日本語研究における自他論(2) 大槻文彦や山田孝雄などの文法研究者の所説を軸に検討する。 第6回 現代の日本語研究における自他論(1) 現在の自他研究の現状と課題について検討する。 第7回 現代の日本語研究における自他論(2) 引き続き、自他研究の現状と課題について検討する。 第8回 現代の日本語研究における自他の分析(1) 現在の日本語における自他について、調査と分析を行う(受講者の発表を含む)。 第9回 現代の日本語研究における自他の分析(2) 引き続き、現在の日本語における自他について、調査と分析を行う(受講者の発表を含む)。 第10回 現代の日本語研究における自他の分析(1) 現在の日本語における自他について、調査と分析を行う(受講者の発表を含む)。 第11回 現代の日本語研究における自他の分析(2) 現在の日本語における自他について、調査と分析を行う(受講者の発表を含む)。 第12回 現代の日本語研究における自他の分析(3) 現在の日本語における自他について、調査と分析を行う(受講者の発表を含む)。 第13回 現代の日本語研究における自他の分析(4) 現在の日本語における自他について、調査と分析を行う(受講者の発表を含む)。 第14回 現代の日本語研究における自他の分析(5) 現在の日本語における自他について、調査と分析を行う(受講者の発表を含む)。 第15回 現代の日本語研究における自他の分析(6) 現在の日本語における自他について、調査と分析を行うとともに、全体を総括する。
履修条件	

成績評価方法	出席と授業時の発表および期末のレポートにより総合的に評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	格，自他，現代日本語

授業科目名	現代日本語研究(4A)
科目番号	02DT447
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春ABC 金4
担当教員	
授業概要	現代日本語に見られる現象を題材に観察し分析していくとともに、文法研究と語彙研究との関わりについて検討していく。
備考	2019年度より4年おき開講。 2023年度開講せず。
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	現代日本語における種々の言語現象を題材に、データ分析の手法や理論的な説明など、日本語研究に必要な知識と技能を身につけることを目的とする。
授業計画	現代日本語における種々の言語現象の分析を進める。本年度は、「言語研究の実践的応用」プロジェクトと連動して、ゼミ形式で行う。 第1回（ガイダンス）授業に関する基本的な説明を行う 第2回 言語研究の実践的応用のあり方(1)「言語研究の実践的応用」プロジェクトの基本的なアカデミックプランニングについて紹介する。 第3回 言語研究の実践的応用のあり方(2)「言語研究の実践的応用」プロジェクトの基本的な課題について紹介する。 第4回 言語研究の実践的応用のあり方(3)「言語研究の実践的応用」プロジェクトと連動する「グローバル時代の母語教育」プロジェクトについて紹介する。 第5回 言語研究の実践的応用のあり方(4)「言語研究の実践的応用」プロジェクトと連動する「次世代型辞典開発」プロジェクトについて紹介する。 第6回 言語研究の実践的応用の展開(1)「言語研究の実践的応用」プロジェクトの具体的事案について検討する。 第7回 言語研究の実践的応用の展開(2)引き続き、「言語研究の実践的応用」プロジェクトの具体的事案について検討する。 第8回 言語研究の実践的応用の展開(3)引き続き、「言語研究の実践的応用」プロジェクトの具体的事案について検討する。 第9回 言語研究の実践的応用の展開(4)引き続き、「言語研究の実践的応用」プロジェクトの具体的事案について検討する。 第10回 言語研究の実践的応用の展開(5)引き続き、「言語研究の実践的応用」プロジェクトの具体的事案について検討する。 第11回 言語研究の実践的応用の展開(6)引き続き、「言語研究の実践的応用」プロジェクトの具体的事案について検討する。 第12回 言語研究の実践的応用の展開(7)引き続き、「言語研究の実践的応用」プロジェクトの具体的事案について検討する。 第13回 言語研究の実践的応用の展開(8)引き続き、「言語研究の実践的応用」プロジェクトの具体的事案について検討する。 第14回 言語研究の実践的応用の展開(9)引き続き、「言語研究実践的応用」プロジェクトの具体的事案について検討する。 第15回 言語研究の実践的応用の総括 授業全体を振り返り、総括を行う。
履修条件	

成績評価方法	
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	日本語研究，日本語研究の周辺領域，言語教育，言語情報サービス

授業科目名	現代日本語研究(4B)
科目番号	02DT448
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋ABC 金4
担当教員	
授業概要	現代日本語に見られる種々の言語現象について分析するとともに、文法情報と語彙情報の辞書における記述について検討していく。
備考	2019年度より4年おき開講。 2023年度開講せず。
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	現代日本語の種々の現象について、具体的な例をもとに分析していく。
授業計画	言語研究の実践的応用プロジェクトと連動したゼミ形式により、言語研究の成果を言語教育や言語情報サービスに活かすための方策、および、それらの現場でどのような言語研究が求められているのかについて、検討する。主として、受講者の発表により、授業を進める。 第1回 ガイダンス 第2回 現代日本語の研究と応用(1)国語教育や日本語教育など、言語教育の分野において求められている言語学的な知見について検討する。 第3回 現代日本語の研究と応用(2)辞書編集や言語処理など、言語情報サービスの分野において求められている言語学的な知見について検討する。 第4回 現代日本語の研究と実践的応用(1)言語研究の周辺の分野において、どのように言語学的な知見を提供するか、具体的な事案を元に検討する。 第5回 現代日本語の研究と実践的応用(2)引き続き、言語研究の周辺の分野において、どのように言語学的な知見を提供するか、具体的な事案を元に検討する。 第6回 現代日本語の研究と実践的応用(3)引き続き、言語研究の周辺の分野において、どのように言語学的な知見を提供するか、具体的な事案を元に検討する。 第7回 現代日本語の研究と実践的応用(4)引き続き、言語研究の周辺の分野において、どのように言語学的な知見を提供するか、具体的な事案を元に検討する。 第8回 現代日本語の研究と実践的応用(5)引き続き、言語研究の周辺の分野において、どのように言語学的な知見を提供するか、具体的な事案を元に検討する。 第9回 現代日本語の研究と実践的応用(6)引き続き、言語研究の周辺の分野において、どのように言語学的な知見を提供するか、具体的な事案を元に検討する。 第10回 現代日本語の研究と実践的応用(7)引き続き、言語研究の周辺の分野において、どのように言語学的な知見を提供するか、具体的な事案を元に検討する。 第11回 現代日本語の研究と実践的応用(8)引き続き、言語研究の周辺の分野において、どのように言語学的な知見を提供するか、具体的な事案を元に検討する。 第12回 現代日本語の研究と実践的応用(9)引き続き、言語研究の周辺の分野において、どのように言語学的な知見を提供するか、具体的な事案を元に検討する。 第13回 現代日本語の研究と実践的応用(10)引き続き、言語研究の周辺の分野において、どのように言語学的な知見を提供するか、具体的な事案を元に検討する。 第14回 現代日本語の研究と実践的応用(11)引き続き、言語研究の周辺の分野において、どのように言語学的な知見を提供するか、具体的な事案を元に検討する。

授業計画	第15回 現代日本語の研究と応用 総括 現代日本語における研究成果と言語教育や辞書編集、言語処理など関連分野との関わりについて、全体の総括を行う。
履修条件	
成績評価方法	
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	言語研究，言語教育，言語情報サービス

授業科目名	現代日本語研究(5A)
科目番号	02DT449
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春ABC 金6
担当教員	
授業概要	現代日本語に見られる現象を題材に観察し分析していくとともに,外国語との対照について検討していく。
備考	2020年度より4年おき開講。 2023年度開講せず。
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標(学修成果)	現代日本語の文における格関係と連用修飾関係に関わる現象について検討する。
授業計画	現代日本語に見られる現象を題材に観察し分析していく。今年度は,格関係と連用修飾関係との関わりを軸に検討していく。 第1回 ガイダンス 第2回 現代日本語の語順(1)格成分や連用修飾成分の語順を観察する。 第3回 現代日本語の語順(2)格成分や連用修飾成分の語順について分析・検討する。 第4回 現代日本語の語順(3)格成分や連用修飾成分の語順と文型についてに検討する。 第5回 現代日本語の格関係(1)文法格の用法について観察する。 第6回 現代日本語の格関係(2)文法格の用法を分析・検討する。 第7回 現代日本語の格関係(3)文法格と意味格との関わりについて検討する。 第8回 現代日本語の格関係(4)格の交替現象について観察する。 第9回 現代日本語の格関係(5)格の交替現象について分析・検討する。 第10回 現代日本語の連用修飾関係(1)結果や状態を表す連用修飾関係について観察・検討する。 第11回 現代日本語の連用修飾関係(2)様態や連続を表す連用修飾関係について観察・検討する。 第12回 現代日本語の連用修飾関係(3)頻度や傾向を表す連用修飾関係について観察・検討する。 第13回 現代日本語の連用修飾関係(4)主観的な判断を表す連用修飾関係について観察・検討する。 第14回 現代日本語の連用修飾関係(5)格成分と連用修飾成分との相関について観察・検討する。 第15回 まとめ
履修条件	
成績評価方法	出席(20%),授業への参加状況(20%),期末レポート(60%)
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	授業時にプリントを配布する。
オフィスアワー等(連絡先含む)	

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	

授業科目名	現代日本語研究(5B)
科目番号	02DT450
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋ABC 金6
担当教員	
授業概要	現代日本語に見られる種々の言語現象について分析するとともに、文法研究の翻訳論への寄与について検討していく。
備考	2020年度より4年おき開講。 2023年度開講せず。 オンライン(同時双方向型)
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標(学修成果)	現代日本語の文における格関係と連用修飾関係に関わる現象について検討する。春学期の講義をもとに、受講者による調査や報告、考察の発表をもとに検討する。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 現代日本語の文における格関係と連用修飾関係に関わる現象について(1) 受講者の発表 第3回 現代日本語の文における格関係と連用修飾関係に関わる現象について(2) 受講者の発表。前回の続き 第4回 現代日本語の文における格関係と連用修飾関係に関わる現象について(3) 受講者の発表。前回の続き 第5回 現代日本語の文における格関係と連用修飾関係に関わる現象について(4) 受講者の発表。前回の続き 第6回 現代日本語の文における格関係と連用修飾関係に関わる現象について(5) 受講者の発表。前回の続き 第7回 現代日本語の文における格関係と連用修飾関係に関わる現象について(6) 受講者の発表。前回の続き 第8回 現代日本語の文における格関係と連用修飾関係に関わる現象について(7) 受講者の発表。前回の続き 第9回 現代日本語の文における格関係と連用修飾関係に関わる現象について(8) 受講者の発表。前回の続き 第10回 現代日本語の文における格関係と連用修飾関係に関わる現象について(9) 受講者の発表。前回の続き 第11回 現代日本語の文における格関係と連用修飾関係に関わる現象について(10) 受講者の発表。前回の続き 第12回 現代日本語の文における格関係と連用修飾関係に関わる現象について(11) 受講者の発表。前回の続き 第13回 現代日本語の文における格関係と連用修飾関係に関わる現象について(12) 受講者の発表。前回の続き 第14回 現代日本語の文における格関係と連用修飾関係に関わる現象について(13) 受講者の発表。前回の続き 第15回 まとめ・補足
履修条件	
成績評価方法	

学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	

授業科目名	英語意味論演習(3A)
科目番号	02DT525
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春ABC 木4
担当教員	和田 尚明, 金谷 優, 小野 雄一
授業概要	認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、認知言語学の論文を中心に行なう。
備考	2023年度より4年おき開講。
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得するようになることが到達目標である。特に、認知言語学関する文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的な検討を加える。 第1回 ガイダンス 第2回 学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討(1) 第3回 学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討(2) 第4回 学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討(3) 第5回 学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討(4) 第6回 学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討(5) 第7回 学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討(6) 第8回 学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討(7) 第9回 学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討(8) 第10回 学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討(9) 第11回 学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討(10) 第12回 学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討(11) 第13回 学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討(12) 第14回 学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討(13) 第15回 まとめ
履修条件	
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度（100％）によって行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	ハンドアウトをきちんと作成し、発表の練習を行っておくこと。
教材・参考文献・配付資料等	1. Bert Cornillie and Nicole Delbecque, Topics in Subjectification and Modalization
オフィスアワー等（連絡先含む）	和田 尚明 月:16:45-18:00 人文社会学系棟 A512 wada.naoaki.gb[at]u.tsukuba.ac.jp [at]を at に置き換える 金谷 優 月曜6限またはアポイントメント 人文社会学系棟 B507 kanet*ani.mas*aru.gb[at]u.tsukuba.a*c.j*p (replace [at] with at ; delete *s) 小野 雄一 火:15:00～16:45、他の時間も対応しますので適宜相談して下さい（対面・

オフィスアワー等（連絡先含む）	オンライン） 人文社会系棟B601 ono.yuichi.ga at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	主体的に授業に参加すること。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	認知言語学，意味論，語用論，機能論

授業科目名	英語意味論演習(3B)
科目番号	02DT526
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋ABC 木4
担当教員	和田 尚明, 金谷 優, 小野 雄一
授業概要	認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、語用論・機能論の論文を中心に行なう。
備考	2023年度より4年おき開講。
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得するようになることが到達目標である。特に、語用論・機能論に関する文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的な検討を加える。 第1回 ガイダンス 第2回 学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討(1) 第3回 学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討(2) 第4回 学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討(3) 第5回 学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討(4) 第6回 学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討(5) 第7回 学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討(6) 第8回 学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討(7) 第9回 学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討(8) 第10回 学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討(9) 第11回 学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討(10) 第12回 学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討(11) 第13回 学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討(12) 第14回 学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討(13) 第15回 まとめ
履修条件	
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度（100％）によって行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	ハンドアウトをきちんと作成し、発表の練習を行っておくこと。
教材・参考文献・配付資料等	特になし。 1. Anastasios Tsangalidis and Roberta Facchinetti, Studies on English Modality
オフィスアワー等（連絡先含む）	和田 尚明 月:16:45-18:00 人文社会学系棟 A512 wada.naoaki.gb[at]u.tsukuba.ac.jp [at]を at に置き換える 金谷 優 月曜6限またはアポイントメント 人文社会学系棟 B507 kanet*ani.mas*aru.gb[at]u.tsukuba.a*c.j*p (replace [at] with at ; delete *s) 小野 雄一 火:15:00～16:45、他の時間も対応しますので適宜相談して下さい（対面・

オフィスアワー等（連絡先含む）	オンライン） 人文社会系棟B601 ono.yuichi.ga at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	主体的に授業に参加すること。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	認知言語学，意味論，語用論，機能論

授業科目名	歴史言語学A
科目番号	02DT901
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春AB 火5
担当教員	池田 潤
授業概要	世界のさまざまな言語を例に、伝統的な歴史言語学の方法論の基礎を学ぶ。具体的には、(1)歴史言語学の研究史、(2)音法則[概論]、(3)音法則[合流と分裂]、(4)音法則[同化]、(5)音法則[弱化]、(6)音法則[その他の変化]、(7)借用、(8)類推、(9)内的再建、(10)比較による祖語の再建を論じる。毎回の授業では講義を行った上で、それをふまえて受講生が自ら例題を通時的に分析してみることで、言語変化の諸相、規則性、要因等に対する理解を深めていく。
備考	西暦奇数年度開講。 OABAG10と同一。 対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「知の活用力」、専門コンピテンス「研究力」「専門知識」「思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	(1)歴史言語学の方法論の基礎を理解し、専門知識を身に付ける。 To gain fundamental understanding of methodology in historical linguistics (2)この専門知識を活用して自ら事例を分析することで、歴史言語学的な思考力と研究力を涵養すること。 To develop capacity for historical linguistic thinking and exploration by putting the understanding into practice through analysis of actual cases
授業計画	導入、歴史言語学とは?(概説) Reading: Campbell (2013), 1 Introduction (1.1-1.3) 導入、歴史言語学とは?(例題) Exercises: Campbell (2013), 1 Introduction (1.4) 音法則(概説) Reading: Campbell (2013), 2 Sound change (2.1-2.9) 音法則(例題) Exercises: Campbell (2013), 2 Sound change (2.10) 類推(概説) Reading: Campbell (2013), 4 Analogical Change (4.1-4.7) 類推(例題) Exercises: Campbell (2013), 4 Analogical Change (4.8) 祖語の再建(概説) Reading: Campbell (2013), 5 The Comparative Method and Linguistic Reconstruction (5.1-5.5) 祖語の再建(例題) Exercises: Campbell (2013), 5 The Comparative Method and Linguistic Reconstruction (5.6) 内的再建(概説) Reading: Campbell (2013), 8 Internal Reconstruction (8.1-8.5) 内的再建(例題) Exercises: Campbell (2013), 8 Internal Reconstruction (8.6)

履修条件	
成績評価方法	概説の回：授業の理解度を確認するために、Responによる小テストを行う。（評点の30%） Reading sessions: Respon quiz (30%) 例題の回：上記の汎用コンピテンスと専門コンピテンスの達成度をミニレポートによって評価する。（評点の70%） Exercise sessions: "mini report" (70%)
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	1) 概説の回：教科書の指定の箇所を予習し、授業で不明な点を質問する。 Reading sessions: Read the assigned pages of the textbook, and ask questions in the class. 2) 例題の回：manabaで指定された問題を解き、ミニレポートとして事前に提出し、授業で討議する。 Exercise sessions: Solve the assigned exercises, and hand in your "mini report" via manaba before the class, and discuss it in the class.
教材・参考文献・配付資料等	各自、Kindle版かペーパーバック版をAmazon等から事前に入手しておくこと。 Each Student is required to purchase a copy of the textbook (Kindle edition or paperback) prior to the first class.
オフィスアワー等（連絡先含む）	金4限(メールにて要予約) 人文社会学系棟 A517 ikeda.jun.fm at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	歴史言語学, 音変化, 類推, 内的再建, 比較言語学 historical linguistics, sound change, analogy, internal reconstruction, comparative linguistics

授業科目名	歴史言語学B
科目番号	02DT902
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋AB 火5
担当教員	池田 潤
授業概要	世界の様々な言語の事例を観察しながら，形態変化，統語変化，言語接触などのテーマを中心に，歴史言語学の基礎を学ぶ。
備考	西暦偶数年度開講。 OABAG11と同一。 2023年度開講せず。 対面 状況によってはオンラインに変更する可能性がある。
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「知の活用力」，専門コンピテンス「研究力」「専門知識」「思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	英文の原書を速読して専門的内容を理解し，世界の様々な言語の事例から言語学的な一般化を引き出す能力を身につけること。また，言語がなぜ変化するかを理解する上での形態，統語に焦点を当てた専門知識を養うことを目標とする。
授業計画	歴史言語学のテキストに沿って授業を進めて行く。 理論的枠組みの紹介 (Introduction: Theoretical approaches and research questions) 形態変化 (Morphological Change) 形態変化 (Morphological Change) 再分析 (Reanalysis) 再分析 (Reanalysis) 統語変化 (Syntactic Change) 統語変化 (Syntactic Change) 統語変化 (Syntactic Change) 言語接触 (Language Contact) 言語接触 (Language Contact)
履修条件	テキスト，参考文献は英語で書かれた原書を使用するので，原書を読むための英語力が必要である。
成績評価方法	授業でのディスカッションと最終試験で評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	テキスト，参考文献の指定した箇所を授業前に読んでおくこと。
教材・参考文献・配付資料等	Campbell, L (2013) Historical Linguistics: An Introduction Harris, A. & L. Campbell (1995) Historical Syntax in Cross-linguistic Perspective Roberts. I (2007) Diachronic Syntax. Oxford Textbooks in Linguistics
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意	

点等)	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	文法化(grammaticalization), 統語的再構築(syntactic reconstruction), 再分析(reanalysis), 語順(word order)

授業科目名	生成統語論A
科目番号	02DT903
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春AB 月4
担当教員	加賀 信広, 島田 雅晴, 山村 崇斗
授業概要	チョムスキーに始まり「普遍文法」を視野にいた生成統語論の観点から言語現象を考察する。具体的には、英語および日本語を中心とするいくつかの言語から題材をもとめ、生成統語論的な分析の実践例を数多く見ることを通して、研究の目的および手法を理解し、自らが生成統語論の立場で新たな文法現象の発掘、分析、議論ができるようになることを目指す。この授業では、主に句構造、形式素性、移動現象にかかわる問題に焦点をあてる。
備考	西暦偶数年度開講。 OABAG12と同一。
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピタンス「1.知の活用力」、専門コンピタンス「1.研究力」「2.専門知識」「4.思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	生成統語論の観点から言語現象を捉え、分析方法を身に付けるとともに、自らの言葉で議論できるようになる。
授業計画	生成統語論の最近の論文をとりあげ、担当者を決めて内容の報告を行い、関連する項目について解説するとともに、それに基づいた討論を行う。 ガイダンス 論文の内容報告、解説、および、討論(1) 論文の内容報告、解説、および、討論(2) 論文の内容報告、解説、および、討論(3) 論文の内容報告、解説、および、討論(4) 論文の内容報告、解説、および、討論(5) 論文の内容報告、解説、および、討論(6) 論文の内容報告、解説、および、討論(7) 論文の内容報告、解説、および、討論(8) 論文の内容報告、解説、および、討論(9)
履修条件	
成績評価方法	プレゼンテーションの内容と学期末のタームペーパーの内容を総合して判断する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	第1回の授業時に指示する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	メールで随時予約。 加賀 信広 メール予約により 人文社会系棟B506 kaga.nobuhiro.gb at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー	

(TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	生成文法，統語論，句構造，形式素性，移動現象

授業科目名	認知意味論A
科目番号	02DT905
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春AB 月3
担当教員	金谷 優, 和田 尚明
授業概要	言語の形式と意味の対応関係にかかわる問題について、英語と日本語を比較対照しながら認知意味論的な観点から考察する。認知意味論的観点というのは、言語が語る意味の世界は客体世界そのものではなく、人間の目を通した世界であり、したがって言語の意味を考えるとときには、人間がものごとをどのように理解し、経験するかという視点が不可欠とするものである。この授業では、特に、言語と認知の関係に関わる様々な語彙・構文現象に焦点をあてる。
備考	西暦奇数年度開講。 OABAG14と同一。 対面 人社A520
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	認知言語学的観点から言語現象を捉え、分析する方法を身につけ、かつ、具体例を用いて自らの言葉でまとめたり、解説したりできるようになることが到達目標である。この授業では、認知言語学の考え方・歴史的背景・方法論・語の意味論を中心に考察する。
授業計画	英語で書かれたテキストを読みながら、主に言語の意味と認知の関係について考えるとともに、認知言語学の研究方法も身につける。 ガイダンス: 授業テーマの概観、授業の進め方確認、テキスト担当箇所割当など 担当箇所の報告に基づく議論・解説: 認知言語学の考え方(基礎) 担当箇所の報告に基づく議論・解説: 認知言語学の考え方(発展) 担当箇所の報告に基づく議論・解説: 認知言語学の歴史的背景(基礎) 担当箇所の報告に基づく議論・解説: 認知言語学の歴史的背景(発展) 担当箇所の報告に基づく議論・解説: 認知言語学の方法論(基礎) 担当箇所の報告に基づく議論・解説: 認知言語学の方法論(発展) 担当箇所の報告に基づく議論・解説: 語の意味論(基礎) 担当箇所の報告に基づく議論・解説: 語の意味論(発展) 全体のまとめと総括
履修条件	言語学の英文論文を十分に読めるだけの英語力を必要とする。
成績評価方法	成績評価は、担当箇所報告の中身と議論への参加度50%、タームペーパー50%で行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	テキストの英文を精読し、その内容についてできるだけ自分なりのことばでも説明できるように、十分に予習して授業に臨むこと。
教材・参考文献・配付資料等	授業で読む英文テキストは、初回授業前にmanabaで指示する。 参考書・参考資料等は次の通り。
オフィスアワー等（連絡先含む）	メールで随時予約のこと。 金谷 優 月曜6限またはアポイントメント 人文社会学系棟 B507 kanet*ani.mas*aru.gb[at]u.tsukuba.a*c.j*p (replace [at])

オフィスアワー等（連絡先含む）	with at ; delete *s) 和田 尚明 月:16:45-18:00 人文社会学系棟 A512 wada.naoaki.gb[at]u.tsukuba.ac.jp [at]を at に置き換える
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	認知言語学，意味論，語用論

授業科目名	認知意味論B
科目番号	02DT906
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋AB 月3
担当教員	和田 尚明, 金谷 優
授業概要	言語の形式と意味の対応関係にかかわる問題について、英語と日本語を比較対照しながら認知意味論的な観点から考察する。認知意味論的観点というのは、言語が語る意味の世界は客体世界そのものではなく、人間の目を通した世界であり、したがって言語の意味を考えるとときには、人間がものごとをどのように理解し、経験するかという視点が不可欠とするものである。この授業では、特に、文法と語用論の関係や言語使用に関わる様々な言語現象に焦点をあてる。
備考	西暦奇数年度開講。 OABAG15と同一。 対面 人社棟A520
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	認知言語学的観点から言語現象を捉え、分析する方法を身につけ、かつ、具体例を用いて自らの言葉でまとめたり、解説したりできるようになることが到達目標である。この授業では、メタファー・メトニミー、構文、主観性、談話・コンテクストを中心に考察する。
授業計画	英語で書かれたテキストを読みながら、主に文法・認知・語用論の関係について考えるとともに、認知言語学と機能言語学の研究方法も身につける。 ガイダンス: 授業テーマの概観、授業の進め方確認、テキスト担当箇所割当など 担当箇所の報告に基づく議論・解説: メタファー・メトニミー(基礎) 担当箇所の報告に基づく議論・解説: メタファー・メトニミー(発展) 担当箇所の報告に基づく議論・解説: 構文と意味(基礎) 担当箇所の報告に基づく議論・解説: 構文と意味(発展) 担当箇所の報告に基づく議論・解説: 主観性の文法(基礎) 担当箇所の報告に基づく議論・解説: 主観性の文法(発展) 担当箇所の報告に基づく議論・解説: 談話とコンテクスト(基礎) 担当箇所の報告に基づく議論・解説: 談話とコンテクスト(発展) 全体のまとめと総括
履修条件	言語学の英文論文を十分に読めるだけの英語力を必要とする。
成績評価方法	成績評価は、担当箇所報告の中身と議論への参加度50%、タームペーパー50%で行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	テキストの英文を精読し、その内容についてできるだけ自分なりのことばでも説明できるように、十分に予習して授業に臨むこと。
教材・参考文献・配付資料等	授業で読む英文テキストは、Declerck and Reed (2006) "Tense and Time in Counterfactual Conditionals"を予定。 参考書・参考資料等は次の通り。
オフィスアワー等（連	メールで随時予約のこと。

絡先含む)	和田 尚明 月:16:45-18:00 人文社会学系棟 A512 wada.naoaki.gb[at]u.tsukuba.ac.jp [at]を at に置き換える 金谷 優 月曜6限またはアポイントメント 人文社会学系棟 B507 kanet*ani.mas*aru.gb[at]u.tsukuba.a*c.jp (replace [at] with at ; delete *s)
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	主体的に授業に臨むこと。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	認知言語学, 構文, 主観性, コンテキスト

授業科目名	対照言語学A
科目番号	02DT907
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春AB 木6
担当教員	宮腰 幸一
授業概要	このコースは、対照言語学の基礎的知識と実践的研究能力の修得を目標とする。まず、主に日本語と英語の身近な具体例を出発点に、いくつかの事例研究の概観・検討を通して対照言語学の射程・目標・方法・意義・成果などを学びながら、受講者それぞれが自分のテーマで対照言語学的研究を試み、実践的な観察・分析・実証・立論能力を養う。その後、各受講者に研究成果を順番に発表してもらい、その内容についてクラス全員で議論する。基本的に、前半は講義形式、後半は演習/セミナー形式で授業を進めるが、その割合は受講者の希望や進展状況に応じて調整する。
備考	OABAG16と同一。 対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1.知の活用力」、専門コンピテンス「1.研究力」「2.専門知識」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	対照言語学の基礎(射程・目標・方法・意義・成果など)について学び、具体的な事例研究を実践できるようになる。
授業計画	対面で行う。資料配布・課題提出はmanabaを利用する。 前半（第1～5回）は講義、後半（第6～10回）は学生による研究発表を行う。講義では、ケーススタディーとして主にヴォイス(特に受動)を取り上げる。 導入・講義1(対照言語学の基礎) 講義2(対照言語学の基礎) 講義3(対照言語学の基礎) 講義4(受動の対照研究1) 講義5(受動の対照研究2) 学生発表1 学生発表2 学生発表3 学生発表4 学生発表5
履修条件	
成績評価方法	フィードバック(各講義・発表への質問・コメント)50%、口頭発表/論文50%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	各講義・発表の関連論文の読解
教材・参考文献・配付資料等	授業時に指示する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	水曜日17時~18時 人文社会学系棟 B607 km.ut.students at gmail.com
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意	

点等)	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	比較・対照, 類型論, ヴォイス(受動/使役/逆使役/非意図/授受/結果表現)

授業科目名	対照言語学B
科目番号	02DT908
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋AB 木6
担当教員	宮腰 幸一
授業概要	春学期の対照言語学Aに引き続き、対照言語学の基礎的知識と実践的研究能力の修得を目指し、前半は講義形式、後半は演習/セミナー形式で授業を進める。
備考	OABAG17と同一。 対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	春学期に引き続き、対照言語学の基礎(射程・目標・方法・意義・成果など)について学び、具体的な事例研究を実践できるようになる。
授業計画	対面で行う。資料配布・課題提出はmanabaを利用する。 前半（第1～5回）は講義、後半（第6～10回）は学生による研究発表を行う。講義では、ケーススタディーとして主にヴォイス（特に使役/逆使役/非意図/授受/結果表現）の対照研究を取り上げる。 導入・講義1(使役表現の対照研究) 講義2(逆使役表現の対照研究) 講義3(非意図表現の対照研究) 講義4(授受表現の対照研究) 講義5(結果表現の対照研究) 学生発表1 学生発表2 学生発表3 学生発表4 学生発表5
履修条件	
成績評価方法	フィードバック(各講義・発表への質問・コメント)50%、口頭発表/論文50%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	各講義・発表の関連論文の読解
教材・参考文献・配付資料等	授業時に指示する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	水曜日17時~18時 人文社会学系棟 B607 km.ut.students at gmail.com
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	

キーワード	比較・対照, 類型論, ヴォイス(受動/使役/逆使役/非意図/授受/結果表現)
-------	---

授業科目名	形態論A
科目番号	02DT911
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春AB 火4
担当教員	田川 拓海
授業概要	屈折形態論に関する研究史を概観し、それぞれの理論・モデルがどのような点において対立しているのかを見るとともに、主要な問題・対立点について整理する。次に、同形性、補充、ゼロ形態等、屈折形態論研究における重要な用語・概念について、どのような言語現象の分析において問題になるのか具体的に検討し、各理論・モデルを用いた分析の利点・難点について考える。対象言語は日本語・英語を中心とするが、必要に応じて様々な言語を取り上げる。
備考	西暦奇数年度開講。 OABAG22と同一。 対面 人社A520
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」、「2. 専門知識」、「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	日本語を中心とした様々な言語の屈折形態論に関わる形態現象を取り上げ、形態論研究において基礎となる理論・モデル、用語・概念、主要な研究テーマに関する基本的な知識および研究の方法論を身に付ける。
授業計画	屈折形態論に関する研究史を概観し、主要な理論・モデルがどのような点において対立しているのかを見る。次に、同形性、補充、ゼロ形態等、主要な用語・概念について、どのような言語現象の分析において問題になるのか具体的に検討する。対象言語は日本語・英語を中心としながら、必要に応じて様々な言語を取り上げる。 言語学における屈折形態論の位置づけ 屈折形態論と統語論、形態統語論 屈折形態論と音韻論、形態音韻論 形態素基盤モデルとパラダイム基盤モデル(1):形態論研究史 形態素基盤モデルとパラダイム基盤モデル(2):現代の形態理論 屈折形態論の基本概念(1):同形性、補充、ゼロ形態 屈折形態論の基本概念(2):総合性と分析性、迂言法 日本語の屈折形態論(1):活用と膠着性 日本語の屈折形態論(2):対照研究 現代における形態論的類型論
履修条件	
成績評価方法	期末課題(レポート)60%,授業内の課題への取り組み40%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業の資料を授業開始までに確認し、終了後は各回の課題に取り組む。期末課題に向けて各回の授業の内容を整理し復習する。
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	火:8:40-9:55 人文社会学系棟 A613 tagawa.takumi.kp at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞ	

むことや受講上の注意 点等)	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	

授業科目名	形態論B
科目番号	02DT912
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋AB 火4
担当教員	田川 拓海
授業概要	複合を含む派生形態論に関する研究史を概観し、それぞれの理論・モデルがどのような点において対立しているのかを見るとともに、主要な問題・対立点について整理する。次に、同音異義性・類義性・多義性、阻止、項構造等、派生形態論研究における重要な用語・概念について、どのような言語現象の分析において問題になるのか具体的に検討し、各理論・モデルを用いた分析の利点・難点について考える。対象言語は日本語・英語を中心とするが、必要に応じて様々な言語を取り上げる。
備考	西暦奇数年度開講。 OABAG23と同一。 対面 人社A520
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」、「2. 専門知識」、「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	日本語を中心とした様々な言語の派生形態論に関わる形態現象を取り上げ、形態論研究において基礎となる理論・モデル、用語・概念、主要な研究テーマに関する基本的な知識および研究の方法論を身に付ける。
授業計画	派生形態論に関する研究史を概観し、主要な理論・モデルがどのような点において対立しているのかを見る。次に、同音異義性・類義性、多義性、阻止、項構造等、主要な用語・概念について、どのような言語現象の分析において問題になるのか具体的に検討する。対象言語は日本語・英語を中心としながら、必要に応じて様々な言語を取り上げる。 言語学における派生形態論の位置づけ 派生形態論と統語論、形態統語論 派生形態論のモデル(1): 語彙主義 派生形態論のモデル(2): 統語的アプローチ 派生形態論の基本概念(1): 範疇と品詞 派生形態論の基本概念(2): 項構造と複合 派生形態論の基本概念(3): 阻止と同音異義性、類義性、多義性 日本語の派生形態論(1): 複合動詞と関連現象 日本語の派生形態論(2): 外来語の形態的・文法的性質 派生形態論と対照研究
履修条件	
成績評価方法	期末課題(レポート)60%, 授業内の課題への取り組み40%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業の資料を授業開始までに確認し、終了後は各回の課題に取り組む。期末課題に向けて各回の授業の内容を整理し復習する。
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	火:8:40-9:55 人文社会学系棟 A613 tagawa.takumi.kp at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞ	

むことや受講上の注意 点等)	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	

授業科目名	音声学A
科目番号	02DT913
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春AB 木6
担当教員	黄 賢暲
授業概要	音声学・韻律に関する実験研究を紹介する。
備考	西暦奇数年度開講。 OABAG24と同一。 対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	Generic competences: 1. Ability to use knowledge Subject-specific competences: 1. Research ability, 2. Specialized knowledge
授業の到達目標（学修成果）	1) To understand various roles of speech prosody 2) To formulate a question and develop a research proposal in phonetics/linguistics
授業計画	This course introduces a range of experimental research on phonetics and speech prosody. Each student will carry out a research project in experimental phonetics/linguistics.
履修条件	Basic knowledge in linguistics and phonetics.
成績評価方法	Participation 20% Final presentation 30% Final paper 50%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	Students are expected to spend time for required readings, assignments, and preparations of final presentation and paper.
教材・参考文献・配付資料等	1) Johnson, Keith (2011). Acoustic and Auditory Phonetics (3rd edition). Oxford: Wiley-Blackwell. 2) Schütze, Carson. (2016). The empirical base of linguistics: Grammaticality Judgments and Linguistic Methodology. Chicago: University of Chicago Press.
オフィスアワー等（連絡先含む）	13:30-14:30 on Mondays hwang.kyung.gu@u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	Depending on the situation, classes may be conducted using ZOOM; A unique link & password to the classroom will be notified in the Manaba course page.
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	articulatory phonetics; acoustic phonetics; perception

授業科目名	音声学B
科目番号	02DT914
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋AB 木3
担当教員	黄 賢暲
授業概要	音声学と他の言語学の分野とのインターフェースに注目し音声研究を行う。
備考	西暦奇数年度開講。 OABAG25と同一。 対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	Generic competences: 1. Ability to use knowledge Subject-specific competences: 1. Research ability, 2. Specialized knowledge
授業の到達目標（学修成果）	1) To understand various roles of speech prosody. 2) To formulate a question and develop a research proposal in the interface between phonetics and other subfields in linguistics. 3) To conduct an experiment and write a short paper.
授業計画	Overview, Topic of research project Interaction between prosody and semantics 1 Interaction between prosody and semantics 2 Focus prosody 1 Focus prosody 2 Downstep 1 Downstep 2 Question prosody Prosody and acquisition Presentations, wrap up
履修条件	Basic knowledge in linguistics and phonetics.
成績評価方法	Participation 20% Final presentation 30% Final paper 50%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	Students are expected to spend time for required readings, assignments, and preparations of final presentation and paper.
教材・参考文献・配付資料等	1) Johnson, Keith (2011). Acoustic and Auditory Phonetics (3rd edition). Oxford: Wiley-Blackwell. 2) Schütze, Carson. (2016). The empirical base of linguistics: Grammaticality Judgments and Linguistic Methodology. Chicago: University of Chicago Press.
オフィスアワー等（連絡先含む）	13:30-14:30 on Mondays hwang.kyung.gu@u.tsukuba.ac.jp 月4限(メールにて要予約) 人文社会学系棟 B408 hwang.kyung.gu at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	Depending on the situation, classes may be conducted using ZOOM; A unique link & password to the classroom will be notified in the Manaba course page.

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	Prosody, Focus, Downstep

授業科目名	日本語文法論IIA
科目番号	02DT923
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春AB 金2
担当教員	橋本 修, 杉本 武, 石田 尊
授業概要	日本語文法の記述的研究の方法論について学ぶとともに、理論的研究との関わりについて考察し、日本語文法の記述的研究の現状と課題について理解を深める。
備考	西暦奇数年度開講。 OABAG32と同一。 対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1.地の活用力」、専門コンピテンス「1.研究力」「2.専門知識」「4.思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	主として現代日本語文法の諸現象に関して、統語論、意味論を中心に、課題発見型のアプローチを行う能力を身に着ける。
授業計画	オリエンテーション、コーパスについてのガイド 意味論から見たテンス1 テンスの意味論的規定 意味論から見たテンス2 ル形のバリエーション 意味論から見たテンス3 タ形のバリエーション ヴォイス1 概観 ヴォイス2 受動文 ヴォイス3 動詞の自他 動詞のアスペクトと他動性 テイル形の解釈と統語構造 テイル形の自他
履修条件	
成績評価方法	授業内での議論への貢献（40%）とレポート(60%)を総合して評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業時間外に関連文献の講読、コーパスを使用した言語調査を行う。
教材・参考文献・配付資料等	基本参考文献は以下の通り。授業時に別途関連文献を提示する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	日本語文法 現代日本語 理論 記述

授業科目名	日本語文法論IIB
科目番号	02DT924
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋AB 金2
担当教員	橋本 修, 杉本 武, 石田 尊
授業概要	現代日本語文法の諸現象に関する受講者各自の研究発表と討論を通して、記述的研究の方法論を学び、データを観察、記述する能力を養う。具体的には、文法の記述と内省やコーパスの関係について考察した上で、格、ヴォイス、テンス・アスペクト、修飾、とりたて、複文、モダリティなどの文法現象の中から課題を取り出し、それぞれの記述に関わる問題を明らかにした上で、受講者が設定した研究課題に関して議論を行う。
備考	西暦奇数年度開講。 OABAG33と同一。 対面 対面授業となった場合は人社A201
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1.地の活用力」、専門コンピテンス「1.研究力」「2.専門知識」「4.思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	主として現代日本語文法の諸現象に関して、統語論、意味論を中心に、課題発見型のアプローチを行う能力を身に着ける。
授業計画	オリエンテーション、コーパスガイド 複文の意味論1 節・出来事の定義 複文の意味論2 節サイズと意味との関係 複文の意味論3 複文と文連鎖 動詞と格1 格 動詞と格2 動詞の意味タイプ 動詞と格3 動詞の分析 主格の認可(1) 主節の場合 主格の認可(2) 従属節の場合 主題の認可
履修条件	
成績評価方法	授業内での議論への貢献（40%）とレポート(60%)を総合して評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業時間外に関連文献の講読、コーパスを使用した言語調査を行う。
教材・参考文献・配付資料等	基本参考文献は以下の通り。授業時に別途関連文献を提示する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	

キーワード	日本語文法 現代日本語 理論 記述
-------	-------------------

授業科目名	日本語談話論A
科目番号	02DT927
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春AB 金4
担当教員	澤田 浩子
授業概要	本科目は、日本語の談話(話し言葉)を対象に、分析に必要な理論や基礎的な概念を習得し、データを分析する力を身につけることを目標とする。さらに、分析により得られた知見を言語教育や隣接分野に応用するための視野を身につける。具体的には、「発話行為」「語りの構造」「会話の開始と終結」「スタイルシフト」などの概念を、論文などを通じて最新の研究動向を踏まえて紹介する(第1回~第5回)。その上で、データ収集と分析の方法を提示し、受講者による実践を交えて理解を深める(第6回~第8回)。授業の最後には、日本語教育や国語教育、文法研究など隣接分野との関連を考え、ディスカッションを行う(第9,10回)。
備考	西暦奇数年度開講。 OABAG40と同一。 対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「知の活用力」 専門コンピテンス「研究力」「専門知識」「思考力」に関連する。
授業の到達目標(学修成果)	(1) 日本語の談話を対象に、分析に必要な理論や概念を習得し、データを分析する力を身につける。 (2) 分析による知見を言語教育や隣接分野に応用するための視野を身につける。
授業計画	言語とコミュニケーション 談話における分析の観点1:隣接ペア、発話行為 談話における分析の観点2:スタイルシフト、キャラクタ、談話マーカー 談話における分析の観点3:話者交替、相互行為、参与者役割 談話における分析の観点4:語りの構造、スモールトーク、会話終結 談話のコーパス利用とデータ収集、および分析の方法 談話の分析の実践1:受講者による研究発表 談話の分析の実践2:ディスカッション 日本語教育と談話研究 文法研究と談話研究
履修条件	特になし
成績評価方法	授業中の発表40%、期末レポート60%(いずれも扱っているテーマの論点を的確に把握できていること、またそれに関連した独自の論の展開ができていることを評価の基準とする)
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	毎週2時間程度の文献の講読、発表準備を行うこと。
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等(連絡先含む)	火曜3限(事前に連絡のこと) sawada.hiroko.gb at u.tsukuba.ac.jp https://www.lingua.tsukuba.ac.jp/~sawada/
その他(受講生にのぞ)	毎回の受講前に指定の文献を講読し、予習を行ってから出席すること。

むことや受講上の注意 点等)	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	なし
キーワード	談話研究, 会話, 話しことば, コーパス, 日本語教育, 社会言語学

授業科目名	日本語談話論B
科目番号	02DT928
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋AB 金4
担当教員	澤田 浩子
授業概要	本科目は、日本語の談話(書き言葉)を対象に、分析に必要な理論や基礎的概念を習得し、データを分析する力を身につけることを目標とする。さらに、分析により得られた知見を言語教育や隣接分野に応用するための視野を身につける。具体的には、「ジャンル」「文体」「結束性」「コロケーション」などの概念を、論文などを通じて最新の研究動向を踏まえて紹介する(第1回~第5回)。その上で、データ収集と分析の方法を提示し、受講者による実践を交えて理解を深める(第6回~第8回)。授業の最後には、日本語教育や国語教育、文法研究など隣接分野との関連を考え、ディスカッションを行う(第9,10回)。
備考	西暦奇数年度開講。 OABAG41と同一。 対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「知の活用力」 専門コンピテンス「研究力」「専門知識」「思考力」に関連する。
授業の到達目標(学修成果)	(1) 日本語の文章を対象に、分析に必要な理論や概念を習得し、データを分析する力を身につける。 (2) 分析による知見を言語教育や隣接分野に応用するための視野を身につける。
授業計画	言語とコミュニケーション 文章における分析の観点1:ジャンル、コンテキスト、文体 文章における分析の観点2:メディア 文章における分析の観点3:結束性、主題 文章における分析の観点4:文型、コロケーション 文章のコーパス利用とデータ収集、および分析の方法 文章の分析の実践1:受講者による研究発表 文章の分析の実践2:ディスカッション 日本語教育と文章研究 文法研究と文章研究
履修条件	特になし
成績評価方法	授業中の発表40%、期末レポート60%(いずれも扱っているテーマの論点を的確に把握できていること、またそれに関連した独自の論の展開ができていることを評価の基準とする)
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	毎週2時間程度の文献の講読、発表準備を行うこと。
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等(連絡先含む)	火曜3限(事前に連絡のこと) sawada.hiroko.gb at u.tsukuba.ac.jp https://www.lingua.tsukuba.ac.jp/~sawada/
その他(受講生にのぞ)	毎回の受講前に指定の文献を講読し、予習を行ってから出席すること。

むことや受講上の注意 点等)	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	なし
キーワード	談話研究, 文章, 書きことば, コーパス, 日本語教育, 社会言語学

授業科目名	英語統語論A
科目番号	02DT941
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春AB 月4
担当教員	島田 雅晴, 加賀 信広, 山村 崇斗
授業概要	近年の英語統語論は生成文法理論の下で発展してきており、その考え方と研究手法はこれから言語研究を学ぶ者には基本となるものである。また、英語で書かれた著作を深く理解し、自分の考えを英語で発信していくための英語力も必須である。このような考えのもと、この科目では英語で書かれた統語論、理論言語学の著作・論文を読みながら、内容を適切に把握する訓練を行い、統語論研究の基礎知識と方法論を身につける演習を行う。具体的には、受講者が自分の専門分野に関わる英語論文を取り上げて紹介し、全員でディスカッションを行う。中心テーマは「機能語・機能範疇」とする。
備考	西暦奇数年度開講。 OABAG50と同一。 対面 人社棟A520
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピタンス「1.知の活用力」、専門コンピタンス「1.研究力」「2.専門知識」「4.思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	英語学・言語学研究に必要な英語論文読解能力の基礎を養い、統語論研究の実践能力の獲得を到達目標とする。英語統語論の基本概念をテーマとする。
授業計画	英語で書かれた著作・論文を読みながら、英語統語論の分析手法に触れて、統語論の基礎知識を確認する。 ガイダンス:授業テーマの概観、授業の進め方の確認 階層構造(基礎) 階層構造(発展) 移動現象(基礎) 移動現象(発展) 削除現象(基礎) 削除現象(発展) 品詞論(基礎) 品詞論(発展) 全体のまとめと総括
履修条件	とくになし
成績評価方法	評価は、授業での発表の中身、議論への参加度、タームペーパーを総合して行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	教材は第1回授業時に指示する。以下は、参考にすべき書籍。
オフィスアワー等（連絡先含む）	メールで随時予約。 加賀 信広 メール予約により 人文社会系棟B506 kaga.nobuhiro.gb at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意	

点等)	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	生成文法, 統語構造, 機能範疇, 移動現象

授業科目名	英語統語論B
科目番号	02DT942
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋AB 月4
担当教員	島田 雅晴, 加賀 信広, 山村 崇斗
授業概要	近年の英語統語論は生成文法理論の下で発展してきており、その考え方と研究手法はこれから言語研究を学ぶ者には基本となるものである。また、英語で書かれた著作を深く理解し、自分の考えを英語で発信していくための英語力も必須である。このような考えのもと、この科目では英語で書かれた統語論、理論言語学の著作・論文を読みながら、内容を適切に把握する訓練を行い、統語論研究の基礎知識と方法論を身につける演習を行う。具体的には、受講者が自分の専門分野に関わる英語論文を取り上げて紹介し、全員でディスカッションを行う。中心テーマは「英語と他言語との比較」とする。
備考	西暦奇数年度開講。 OABAG51と同一。 対面 人社棟A520
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピタンス「1.知の活用力」、専門コンピタンス「1.研究力」「2.専門知識」「4.思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	英語学・言語学研究に必要な言語分析能力とそれを英語で発信する能力の獲得を到達目標とする。英語と他の言語の比較をテーマとする。
授業計画	英語で書かれた著作・論文から言語間比較に関する題材を選び、英語と他の言語の類似点、相違点を統語論的な観点から論じることで、英語統語論について理解を深める。 ガイダンス:授業テーマの概観、授業の進め方の確認など 生成統語論、極小理論の概観(基礎) 生成統語論、極小理論の概観(発展) 英語と他のゲルマン語の比較検討 英語の史的変化の検討 英語とロマンス語の比較検討(基礎) 英語とロマンス語の比較検討(発展) 英語と日本語の比較検討(基礎) 英語と日本語の比較検討(発展) 全体のまとめと総括
履修条件	とくになし。
成績評価方法	評価は、授業での発表の中身、議論への参加度、タームペーパーを総合して行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	教材は、初回授業時に指示する。以下は、参考にすべき書籍。
オフィスアワー等（連絡先含む）	メールで随時予約。
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	生成文法, 極小理論, 言語比較, 言語分析

授業科目名	英語意味論 A
科目番号	02DT943
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春AB 月3
担当教員	金谷 優, 和田 尚明
授業概要	認知言語学や構文文法を中心とした、現代英語をめぐる様々な意味論的アプローチの研究動向を探る。この授業では、特に、形式と意味機能の対応関係や認知と比喻の関係を中心に扱い、主観性に基づく意味論を基にした分析方法について考察する。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表内容を基に批判的検討を加え、授業参加者による討論を行なう。
備考	西暦偶数年度開講。 OABAG54と同一。 対面
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	言語の形式と意味の対応関係にかかわる問題について、主に英語の文法現象について認知意味論的な観点から考察する。この授業では、特に、言語と認知の関係に関わる様々な構文現象に焦点をあてる。
授業計画	英語で書かれたテキストを読みながら、主に言語の意味と認知の関係について考えるとともに、認知言語学の研究方法も身につける。 ガイダンス: 授業の進め方の確認、プレゼンテーションの順番の決定、導入など 学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討: 主体性と主観性 学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討: メタファー 学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討: メトニミー 学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討: シネクドキ 学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討: 語彙意味論とLCS 学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討: 認知言語学と構文 学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討: 構文文法 学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討: プロトタイプ理論 総括 予定は変更の可能性あり（授業内での案内が最新かつ公式なものとして優先される）。
履修条件	言語学の英文論文を十分に読めるだけの英語力を必要とする。
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度、タームペーパーなどを総合して行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	テキストの英文を精読し、その内容についてできるだけ自分なりのことばでも説明できるように、十分に予習して授業に臨むこと。
教材・参考文献・配付資料等	テキストおよび担当割り振りは初回授業時に指示する。 全般的な参考書としては、例えば、以下を参照。
オフィスアワー等（連絡先含む）	メールで随時予約のこと。
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	意味論, 認知言語学, 構文文法

授業科目名	英語意味論B
科目番号	02DT944
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋AB 月3
担当教員	和田 尚明, 金谷 優
授業概要	語用論研究や言語使用に関する日英語比較を中心とした、現代英語をめぐる様々な意味・語用論的アプローチの研究動向を探る。この授業では、特に、語用論・言語使用と意味機能の関係を扱い、代表的な意味論・語用論に関する理論についても触れる。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表内容を基に批判的検討を加え、授業参加者による討論を行なう。
備考	西暦偶数年度開講。 OABAG55と同一。 対面
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	意味論・語用論の観点から言語現象を捉え、分析する方法を身につける。また、具体例を用いて自らのことばでまとめたり、開設したりできるようになることが到達目標である。この授業では、語用論、言語使用、意味機能を中心に考察する。
授業計画	英語で書かれたテキストを読みながら、主に意味解釈と発話行為理論や認知語用論について考えるとともに、英語の意味論・語用論の研究手法も身につける。 ガイダンス：授業テーマの概観、授業の進め方、等も指示 担当者の報告に基づく議論・討論：Griceの会話の公理 担当者の報告に基づく議論・討論：Austinの発話行為理論 担当者の報告に基づく議論・討論：Searleの発話行為理論 担当者の報告に基づく議論・討論：Neo-Gricean: Horn 担当者の報告に基づく議論・討論：Neo-Gricean: Levinson 担当者の報告に基づく議論・討論：関連性理論 担当者の報告に基づく議論・討論：認知機能論 担当者の報告に基づく議論・討論：日英語比較 全体のまとめと総括
履修条件	言語学の英文論文を十分に読めるだけの英語力を必要とする。
成績評価方法	評価は、担当箇所報告の中身、議論への参加度、タームペーパーを総合して行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	テキストの英文を精読し、その内容についてできるだけ自分なりのことばでも説明できるように、十分に予習して授業に臨むこと。
教材・参考文献・配付資料等	テキストは、初回授業時に指示する。 全般的な参考書としては、例えば、以下を参照。
オフィスアワー等（連絡先含む）	メールで随時予約のこと。 和田 尚明 月:16:45-18:00 人文社会学系棟 A512 wada.naoaki.gb[at]u.tsukuba.ac.jp [at]を at に置き換える 金谷 優 月曜6限またはアポイントメント 人文社会学系棟 B507 kanet*ani.mas*aru.gb[at]u.tsukuba.a*c.j*p (replace [at] with at ; delete *s)
その他（受講生にのぞ	

むことや受講上の注意 点等)	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	語用論, 言語使用, 意味機能

授業科目名	ドイツ語学A
科目番号	02DT951
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春AB 火2
担当教員	大矢 俊明, 住大 恭康
授業概要	現代ドイツ語の特徴を、語彙、文法ならびに語史の観点から明らかにする。また、必要に応じて日本語や英語などとドイツ語を比較対照し、ドイツ語ないしゲルマン語が持つ個別的特徴と、人間言語が持つ普遍的特徴について、記述的、理論的ならびに通時的ないし歴史的な視点から考察を行う。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAG66と同一。 2023年度開講せず。 対面
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	ドイツ語で書かれた専門文献を精読しながら、ドイツ語における「証拠性」に関する既存の研究を理解し、同時に他言語と比較することにより履修者自身の観点から問題点を明確にし、その上で自らの主張を明示する。
授業計画	ガイダンス,ならびに分担の決定 文献の精読と議論(1) 文献の精読と議論(2) 文献の精読と議論(3) 文献の精読と議論(4) 文献の精読と議論(5) 文献の精読と議論(6) 文献の精読と議論(7) 文献の精読と議論(8) 議論の総括
履修条件	
成績評価方法	文献精読に対する準備,ならびに議論に対する積極性をもとに評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	必要に応じて,他の関連文献について報告を行ってもらうこともある。
教材・参考文献・配付資料等	精読する文献は授業中に配布する。また,参考・関連文献も授業中にアナウンスする。
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	

キーワード	証拠性，モダリティ，話法の助動詞
-------	------------------

授業科目名	ドイツ語学B
科目番号	02DT952
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋AB 火2
担当教員	大矢 俊明, 住大 恭康
授業概要	現代ドイツ語の特徴を、意味論的ならびに語用論的な観点から明らかにする。また、必要に応じて日本語や英語などとドイツ語を比較対照し、ドイツ語ないしゲルマン語が持つ個別の特徴と、人間言語が持つ普遍の特徴について、記述的、理論的ならびに通時的ないし歴史的な視点から考察を行うことになる。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAG67と同一。 2023年度開講せず。 対面
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	ドイツ語で書かれた専門文献を精読しながら、ドイツ語における「証拠性」と「モダリティ」、さらに「文法化」の関連について既存の研究を理解する。同時に他言語と比較することにより、履修者自身の観点から問題点を明確にする。その上で、自らの主張を明らかにし、どのように形式化・明示化するべきかを考察する。
授業計画	ガイダンス,ならびに分担の決定 文献の精読と議論(1) 文献の精読と議論(2) 文献の精読と議論(3) 文献の精読と議論(4) 文献の精読と議論(5) 文献の精読と議論(6) 文献の精読と議論(7) 文献の精読と議論(8) 議論の総括
履修条件	
成績評価方法	文献精読に対する準備,ならびに議論に対する積極性をもとに評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	必要に応じて,他の関連文献について報告を行ってもらうこともある。
教材・参考文献・配付資料等	精読する文献は授業中に配布する。また,参考・関連文献も授業中にアナウンスする。
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチング	

アシスタント (TA)	
キーワード	証拠性, 話法の助動詞, モダリティ

授業科目名	中国語学A
科目番号	02DT961
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春AB 木2
担当教員	佐々木 勲人
授業概要	中国語の文法研究に関する優れた論文を演習形式で読み進めながら、中国語の諸現象について考える。文法現象に表れた中国語の事態把握捉の特徴を他言語(主に日本語)との対照を通して検討する。中国各地の方言データも取り上げながら、標準語のみを対象とする従来の文法研究が看過してきた特徴を明らかにする。研究テーマをどのように設定するか、またそれをどのように分析していくかなど、研究方法や分析手順を学ぶこともこの授業の目的の一つである。
備考	西暦偶数年度開講。 OABAG70と同一。 2023年度開講せず。 対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	木村英樹著『中国語文法の意味とカタチ』を読み進めながら、中国語文法の諸問題について考える。具体的な研究の方法論を学ぶこともこの授業の目標の一つである。
授業計画	十分な感染対策を講じた上で対面式で実施する行う。 感染状況によってはオンライン授業（リアルタイム型）により実施する場合もある。 「第1章：指示詞の意味機能」を読む（1） 「第1章：指示詞の意味機能」を読む（2） 「第1章：指示詞の意味機能」を読む（3） 「第3章：三人称代名詞の敬語制約」を読む（1） 「第3章：三人称代名詞の敬語制約」を読む（2） 「第3章：三人称代名詞の敬語制約」を読む（3） 「第8章：ヴォイスの意味と構造」を読む（1） 「第8章：ヴォイスの意味と構造」を読む（2） 「第8章：ヴォイスの意味と構造」を読む（3） 「第8章：ヴォイスの意味と構造」を読む（4）
履修条件	中国語が理解できること。
成績評価方法	平常点50%とレポート50%による。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	十分に予習した上で、問題点を整理しておくこと。
教材・参考文献・配付資料等	教材はmanabaを通して配布する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	木曜日 11:30～12:00（要予約） 人文社会学系棟 A718 sasaki.yoshihito.gm at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	授業中の積極的な発言を歓迎します。
他の授業科目との関連	

ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	なし
キーワード	中国語学, 統語論, 論文演習, 研究方法

授業科目名	中国語学B
科目番号	02DT962
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋AB 木2
担当教員	佐々木 勲人
授業概要	中国語文法研究をおこなううえで、必ず通読し理解しておくべき基礎文献を演習形式で読み進めていく。品詞分類、語順、主題、アスペクト、モダリティ、ヴォイス、ダイクシスなど中国語の個性が色濃く現れると思われるテーマを取り上げ、中国語文法研究に必要な最低限の知識を身に付けることを目指す。授業では、内容に対する正確な理解が求められるだけではなく、各自が批判的な視点を以て問題点・疑問点を見つけ出し、積極的に議論に参加することが求められる。
備考	西暦偶数年度開講。 OABAG71と同一。 2023年度開講せず。 対面
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	中国語文法に関する研究論文を読み進めながら、中国語の諸問題について考える。問題設定の方法や分析の手順など、研究方法を学ぶこともこの授業の目標の一つである。
授業計画	感染予防対策を十分に行った上で対面授業を行います。 中国語の事態把握(1) 主観性に関する論文を読み、ディスカッションを行う。 中国語の事態把握(2) 主観性に関する論文を読み、ディスカッションを行う。 中国語の事態把握(3) 主観性に関する論文を読み、ディスカッションを行う。 中国語の存在表現(1) 存在表現と所在表現に関する論文を読み、ディスカッションを行う。 中国語の存在表現(2) 存在表現と所在表現に関する論文を読み、ディスカッションを行う。 中国語の存在表現(3) 存在表現と所在表現に関する論文を読み、ディスカッションを行う。 中国東南方言の主観性(1) 東南方言の主観的事態把握に関する現象を取り上げ、ディスカッションを行う。 中国東南方言の主観性(2) 東南方言の主観的事態把握に関する現象を取り上げ、ディスカッションを行う。 中国東南方言の主観性(3) 東南方言の主観的事態把握に関する現象を取り上げ、ディスカッションを行う。 中国東南方言の主観性(4) 東南方言の主観的事態把握に関する現象を取り上げ、ディスカッションを行う。
履修条件	
成績評価方法	平常点50%とレポート50%による。
学修時間の割り当て及び授業外における学修	

方法	
教材・参考文献・配付資料等	教材は授業時に配布する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	木曜日 11:30～12:00（要予約） 人文社会学系棟 A718 sasaki.yoshihito.gm at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	積極的な発言を歓迎します。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	中国語学，論文演習，問題設定，研究方法

授業科目名	韓国語学A
科目番号	02DT965
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春AB 木2
担当教員	金 仁和
授業概要	現代韓国語の先行研究を熟読して、その問題点や課題を論議することで、現代韓国語の特徴を把握する。音韻、形態構造、語彙、文法、表現、統語などの言語分析の諸分野だけに限らず、文章・論理構造、談話理解、言語コミュニケーションなどの言語運用の諸分野まで、現代韓国語が持っている個別性を概論的に考察する。また、日本語との対照を通して、言語の普遍性と個別性をより深く理解する。主テーマになる分野は、各年度別に選定する。
備考	西暦奇数年度開講。 OABAG76と同一。 対面
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、 専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	現代韓国語の先行研究を熟読して、その問題点や課題を論議することで、現代韓国語の特徴を把握する。音韻、形態構造、語彙、文法、表現、統語などの言語分析の諸分野だけに限らず、文章・論理構造、談話理解、言語コミュニケーションなどの言語運用の諸分野まで、現代韓国語が持っている個別性を概論的に考察する。また、日本語との対照を通して、言語の普遍性と個別性をより深く理解する。
授業計画	韓国語の諸分野を概論的に理解する。 韓国語の文字と発音 発音規則 語形成:複合と派生 機能語(助詞、接辞):曲用と活用 態:能動、受け身、使役、二重態 時制(tense)と相(aspect) 様態(modality) 敬語(speech level) 語彙の分布と特徴 論理構造と談話理解 韓国語の各分野での特徴を理解し、日本語との対照を試みる。
履修条件	特になし
成績評価方法	授業での態度と発表内容(40%)と期末レポート(60%)
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	春AB 木2 1. 講義の各テーマに関する先行研究を熟読する。 2. 各テーマの疑問点や問題の解決について考える。
教材・参考文献・配付資料等	教材と配布資料はマナバを介して提供する。 参考文献は教材に提示する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	木5,6(要アポ) 人文社会棟A514 kim.inhwa.gp at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞ	特になし

むことや受講上の注意 点等)	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	なし
キーワード	韓国語の音声・文字, 韓国語の文法, 韓国語の論理構造, 談話理解

授業科目名	韓国語学B
科目番号	02DT966
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋AB 木2
担当教員	金 仁和
授業概要	言語表現の分析には、その表現がどのような「視点」を取りながら意味を表しているのかを考察する方法もある。例えば、日本語は話者・聴者・主体との関係で表現のスピーチレベルが決められる。反面、韓国語は話者と他者との関係でスピーチレベルが決められる。つまり、敬語表現において、日本語は移動的視点を持ち、韓国語は固定的視点を持っていると言える。現代韓国語の時制・指示・授受・慣用表現・あいさつことばなどの表現類型から見られる視点を考察する。また、「感情・主観」の介入程度により視点がどのように変化するのかを、対象になる表現の意味を具体的に分類しながら調べる。主テーマになる表現類型は、各年度別に選定する。
備考	西暦奇数年度開講。 OABAG77と同一。 対面
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、 専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	言語表現の分析には、その表現がどのような「視点」を取りながら意味を表しているのかを考察する方法もある。例えば、日本語は話者・聴者・主体との関係で表現のスピーチレベルが決められる。反面、韓国語は話者と他者との関係でスピーチレベルが決められる。つまり、敬語表現において、日本語は移動的視点を持ち、韓国語は固定的視点を持っていると言える。現代韓国語の時制・指示・授受・慣用表現・あいさつことばなどの表現類型から見られる視点を考察する。また、「感情・主観」の介入程度により視点がどのように変化するのかを、対象になる表現の意味を具体的に分類しながら調べる。
授業計画	韓国語の場面別表現から見られる視点を調査する。 言語運用での視点とは 慣用表現が使用される場面 場面別の表現分類 表現選択に作用する要因:相手との関係(距離感) 要件の重さ 場面の公私 絶対的視点/相対的視点とは 絶対的視点/相対的視点が適用される場面と表現内容 日本語との比較 積極的視点/消極的視点とは 積極的視点/消極的視点が適用される場面と表現内容 日本語との比較 開放的視点/閉鎖的視点とは 開放的視点/閉鎖的視点が適用される場面と表現内容 日本語との比較 日本語の視点と対照しながら、韓国語の運用における視点の特徴を考察する。
履修条件	特になし
成績評価方法	授業での態度と発表内容(40%)と期末レポート(60%)

学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	秋学期 木曜2限
教材・参考文献・配付資料等	教材と配布資料はマナバを介して提供する。 参考文献は教材に提示する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	木5,6(要アポ) kim.inhwa.gp at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	特になし
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	なし
キーワード	言語運用における視点，慣用表現，表現類型

授業科目名	国語教育学A
科目番号	02DT973
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春AB 集中
担当教員	
授業概要	言語研究(主として日本語研究)と言語教育(主として国語教育)との目的や方法論の違いを理解した上で、グローバル社会・情報化社会に対応する国語教育学を展開させていくために必要な日本語学的な素養や言語学的観点を身につけることを目的とする。まず講義を通して、言語研究と言語教育、国語教育と日本語教育との目的や方法論の違いについて、文法論・語彙論・待遇表現論・コミュニケーション論などの分野を例に、言語研究の成果がどのように国語教育へ応用されてきたかを把握した上で、演習形式で、グローバル社会・情報化社会に必要とされる論理展開力の育成やアイデンティティ・共感力の育成のために、母語教育にはどのような観点が必要とされるか、また日本語研究はどのようにそれを支援できるかについて検討していく。
備考	西暦奇数年度開講。 OABAG84と同一。 2023年度開講せず。
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス(知の活用力、コミュニケーション能力)日本語研究の知見を国語教育分野に実践的に応用すること、学習者への適切な指導することに関わる能力を身につける。 専門コンピテンス(研究力、専門知識、思考力、総合力)日本語研究と国語教育との連携において必要な日本語学や国語教育の専門知識を身につけるとともに、それらを総合して具体的な課題に応じて研究を遂行する力を身につける。
授業の到達目標(学修成果)	母語話者への母語教育の在り方を検討することを通じて、言語研究の知見を社会実装化するための基本的な知識と具体的な方法を身につけることを目的とする。
授業計画	グローバル時代に求められる言語運用能力を母語教育においてどのように実現していくのか、それに日本語研究はどのように関与するのか、基本的な知識を得るとともに、具体的な課題について検討して行く。 ガイダンス「言語教育と言語研究」 国語教育と日本語研究(1) 言語習熟論プロジェクトについて 国語教育と日本語研究(2) 個別対応型国語辞典プロジェクトについて 国語教育と日本語研究(3) 作文支援ツール開発プロジェクトについて 国語教育と日本語研究(4) 「ことば地図」支援プロジェクトについて 国語教育と日本語研究の連携(1) 各プロジェクトの課題と成果について 国語教育と日本語研究の連携(2) 各プロジェクトの課題と成果について国語辞典プロジェクトの課題と成果 国語教育と日本語研究の連携(3) 各プロジェクトの課題と成果について 国語教育と日本語研究の連携(4) 各プロジェクトの課題と成果について日本語研究 国語科と英語科との連携や日本にルーツを持たない児童・生徒への日本語教育との連携などに関して、基本的な知識を得るとともに、日本語研究の関与の在り方について、検討する。 国語教育と日本語研究の連携(5) まとめ 国語科および関連分野と協働して、日本語研究は種々の課題に対してどのように取り組むことが出来るのか、検討する。

履修条件	
成績評価方法	授業への参加態度(10%)および期末時のレポート(90%)により評価する
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	受講希望者は、あらかじめ授業担当者まで連絡をすること
教材・参考文献・配付資料等	小学校、中学校、高等学校の国語科の学習指導要領にあらかじめ手目を通しておくことが望ましい。 学習指導要領・解説 文部科学省ホームページ https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm 授業時に国語科の検定教科書を参照することもある。図書館等で、現行の小学校、中学校の国語科教科書がどのようなものか、ざっと目を通しておかれたい
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	国語教育，国語科，日本語研究，国語政策，国語の特質，言語事項、国語辞典

授業科目名	国語教育学B
科目番号	02DT974
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋AB 集中
担当教員	
授業概要	日本語研究と国語(日本語)教育との関係に関わる比較的高度な知識を習得することで、両者の相互互惠的な関係を意識するとともに、これからのグローバル社会・情報化社会の母語教育において求められる言語分析力について深く洞察する知識と能力を身につけることを目的とする。まず、日本語の文法研究史・文法教育史の関わりについての概説を行い、各時代が何にために「言葉の説明」を求めたのか、日本語研究がそれにはいかなる「文法論」を提供したのかについて検討を加える。これをふまえて、演習形式で、これからの多言語使用多文化理解社会へ向けて、母語教育は、初等教育から中等教育へ、母語から多言語へ、いかに接続させていくか、それにはいかなる言語分析能力の育成が求められるのか、それを支援するためにどのような言語情報提供ツールの開発が求められるのか等について検討していく。
備考	西暦奇数年度開講。 OABAG85と同一。 2023年度開講せず。 オンライン(オンデマンド型)
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス(知の活用力、コミュニケーション能力)日本語研究の知見を国語教育分野に実践的に応用すること、学習者への適切な指導することに関わる能力を身につける。 専門コンピテンス(研究力、専門知識、思考力、総合力)日本語研究と国語教育との連携において必要な日本語学や国語教育の専門知識を身につけるとともに、それらを総合して具体的な課題に応じて研究を遂行する力を身につける。
授業の到達目標(学修成果)	母語話者への母語教育の在り方を検討することを通じて、日本語研究の知見を社会実装化するための実践的な知識と方法を身につけることを目的とする。
授業計画	日本語研究の立場から、母語教育を支援するにはどのような観点が求められるのか、また課題にどのように接近するのか、具体的な課題をもとに検討していく。 ガイダンス「日本語研究の知見の社会実装化と国語教育」 国語科が求める「日本語の習熟」(1) いわゆる言語習熟論に立場から、主として、小学校前期においてに習熟すべき言語力、およびその課題について検討する。 国語科が求める「日本語の習熟」(2) いわゆる言語習熟論に立場から、主として、小学校後期においてに習熟すべき言語力、およびその課題について検討する。 国語科が求める「日本語の習熟」(3) いわゆる言語習熟論に立場から、主として、中学校においてに習熟すべき言語力、およびその課題について検討する。 国語科が求める「日本語の習熟」(4) いわゆる言語習熟論に立場から、主として、高等学校においてに習熟すべき言語力、およびその課題について検討する。 国語教育を支援システムの開発(1) 国語教育や言語運用の現場ではどのような課題があるのか、それを解決するためにはど

授業計画	のような支援ツールが求められているのか、さらにそれを実現するためにはどのような研究が必要なのか、学習国語辞典を例に、望まれる言語支援ツールについて考える。 国語教育を支援システムの開発(2) 小学校国語科の「読むこと」「書くこと」における具体的な課題を例に、そこで提供すべき情報と提供方法について具体的に検討する。 国語教育を支援システムの開発(3) 中学校国語科の「読むこと」「書くこと」における具体的な課題を例に、そこで提供すべき情報と提供方法について具体的に検討する。 国語教育を支援システムの開発(4) 高等学校における小論文指導における具体的な課題を例に、そこで提供すべき情報と提供方法について具体的に検討する。 国語教育と外国語教育・日本語教育との連携を円滑にするための支援システム 国語教育と英語教育、国語教育と日本語教育の連携を円滑に行うために求められる言語支援ツールについて検討する。
履修条件	
成績評価方法	授業時の参加態度(10%)および期末時のレポート(90%)により評価する
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	受講希望者は、あらかじめ授業担当者に連絡をすること
教材・参考文献・配付資料等	資料は授業時に配布する。 小学生用の学習国語辞典、中学生用の小型国語辞典、高校生から一般向けの小型国語辞典がどのようなものか、あらかじめ把握しておきたい。 学校における電子辞典の活用についても扱うので、現行の電子辞典がどのような機能をしているのかについて、あらかじめ把握しておきたい。
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	国語科教育，日本語研究，社会実装，国語辞書，外国語科，日本語教育

授業科目名	日本語教育学IIA
科目番号	02DT977
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋AB 火6
担当教員	松崎 寛
授業概要	「日本語教育方法の改善に役立つと思われる実験・調査を行っている論文(日本語)」をとりあげ、その方法論上の疑問点や、推論の妥当性について全員で討議する。この授業を通して受講生は、日本語音声教育に関する知識を得るとともに、論文を批判的に検討するための方法論を学ぶことができる。
備考	西暦奇数年度開講。 0ABAG92と同一。 対面
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1.知の活用力」「3.コミュニケーション能力」「5.国際性」に関連する 専門コンピテンス「1.研究力」「2.専門知識」「4.思考力」「5.総合力」に関連する
授業の到達目標（学修成果）	日本語教育の論文についての議論を通して、日本語教育の方法学や、論文を批判的に検討するための方法論に関して説明できるようになる
授業計画	「日本語教育方法の改善に役立つと思われる実験・調査を行っている論文(日本語)」をとりあげ、その方法論上の疑問点や、推論の妥当性について全員で討議する。受講生は、口頭による発表方法を工夫し、また積極的に議論に参加することが期待される。 オリエンテーション 日本語教育学、日本語教育方法論、およびクリティカルシンキング概説 日本語教育学、日本語教育方法論、およびクリティカルシンキング概説 日本語教育学分野の論文講読および討議 日本語教育学分野の論文講読および討議 日本語教育学分野の論文講読および討議 日本語教育学分野の論文講読および討議 日本語教育学分野の論文講読および討議 日本語教育学分野の論文講読および討議 日本語教育学分野の論文講読および討議 日本語教育学分野の論文講読および討議
履修条件	
成績評価方法	発表 30% 討論参加および他者評価内容 20% 期末レポート 50%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業内で適宜指示する。
教材・参考文献・配付資料等	授業内で適宜指示する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	matsuzaki.hiroshi@nihon-u.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	日本語教育学, 日本語教育方法論, クリティカルシンキング

授業科目名	日本語教育学IIB
科目番号	02DT978
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋AB 月3
担当教員	松崎 寛
授業概要	日本語教育方法の改善に役立つと思われる論文を取り上げ,方法論上の問題点や,推論の妥当性について全員で討議する。この授業を通して受講生は,日本語教育方法学に関する知識を得るとともに,論文を批判的に検討するための方法論を学ぶことができる。
備考	西暦奇数年度開講。 OABAG93と同一。 2023年度開講せず。 対面授業の場合は人社A205
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1.知の活用力」「3.コミュニケーション能力」「5.国際性」に関連する 専門コンピテンス「1.研究力」「2.専門知識」「4.思考力」「5.総合力」に関連する
授業の到達目標(学修成果)	日本語教育方法の改善に役立つと思われる論文を取り上げ,方法論上の問題点や,推論の妥当性について全員で討議する。この授業を通して受講生は,日本語教育方法学に関する知識を得るとともに,論文を批判的に検討するための方法論を学ぶことができる。
授業計画	対面実施が難しい場合はオンライン(同時双方向)で行う。 「日本語教育方法の改善に役立つと思われる実験・調査を行っている論文(日本語)」をとりあげ,その研究の方法論に関して討議する。受講生は,口頭による発表方法を工夫し,また積極的に議論に参加することが期待される。 日本語教育学、日本語教育方法論、およびクリティカルシンキングに関する授業担当者の講義 日本語教育学、日本語教育方法論、およびクリティカルシンキングに関する授業担当者の講義 日本語教育学分野の論文講読および討議 日本語教育学分野の論文講読および討議 日本語教育学分野の論文講読および討議 日本語教育学分野の論文講読および討議 日本語教育学分野の論文講読および討議 日本語教育学分野の論文講読および討議 日本語教育学分野の論文講読および討議 日本語教育学分野の論文講読および討議
履修条件	
成績評価方法	発表,討論参加,他者評価内容,期末課題等による総合判定。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業内で適宜指示する。
教材・参考文献・配付資料等	授業内で適宜指示する。
オフィスアワー等(連	随時(要アポイントメント)

絡先含む)	matsuzaki.hiroshi.fp at u.tsukuba.ac.jp http://www.u.tsukuba.ac.jp/~matsuzaki.hiroshi.fp/
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	日本語教育学, 日本語教育方法論, クリティカルシンキング

授業科目名	外国語教育学A
科目番号	02DT979
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春AB 月6
担当教員	小野 雄一, 矢澤 翔
授業概要	本授業では、言語能力や言語知識を考察対象とする言語学を基盤した第二言語習得研究の諸相について、特に文法習得、音声習得について概観する。習得が困難なもの、中間言語の発達、音声習得とその認知的手がかりなどを主に扱う。今学期は特に母語の転移と普遍的知識へのアクセスなどを扱う。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAG96と同一。 2023年度開講せず。
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1 知の活用力」、「3 コミュニケーション能力」、「5 国際性」に関連する。 専門コンピテンス「1 研究力」、「2 専門知識」、「4 思考力」、「5 総合力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	第二言語習得理論と理論言語学に関する文献を講読し、言語習得研究及び研究法に関する知識を習得する。
授業計画	本授業は講義と演習を中心に行なっていきます。 イントロダクション 中間言語について（基礎） 中間言語について（応用） 母語の転移について（基礎） 母語の転移について（応用） 普遍的知識へのアクセスについて（基礎） 普遍的知識のアクセスについて（応用） 論文の検討（1） 論文の検討（2） 総合考察：教育への応用に主眼を置いて
履修条件	
成績評価方法	授業への参加度(30%)、レポート(70%)
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業前の予習、発表に関する準備など。
教材・参考文献・配付資料等	White, L. (2003). Second Language Acquisition and Universal Grammar (Cambridge Textbooks in Linguistics). Cambridge: Cambridge University Press. doi:10.1017/CB09780511815065
オフィスアワー等（連絡先含む）	小野 雄一 火:15:00～16:45、他の時間も対応しますので適宜相談して下さい（対面・オンライン） 人文社会系棟B601 ono.yuichi.ga at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	英語学領域の院生のみならず、言語習得研究にについて学びたい院生の受講を歓迎する。
他の授業科目との関連	

ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	第二言語習得，中間言語、普遍的知識

授業科目名	外国語教育学B
科目番号	02DT980
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋AB 月6
担当教員	小野 雄一, 矢澤 翔
授業概要	本授業では、言語能力や言語知識を考察対象とする言語学を基盤した第二言語習得研究の諸相について、特に文法習得、音声習得について概観する。習得が困難なもの、中間言語の発達、音声習得とその認知的手がかりなどを主に扱う。今学期は特に研究手法やデータ収集の仕方に焦点を当てる。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAG97と同一。 2023年度開講せず。 対面
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス 「1 知の活用力」、「3 コミュニケーション能力」、「5 国際性」に関連する。 専門コンピテンス 「1 研究力」、「2 専門知識」、「4 思考力」、「5 総合力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	第二言語習得理論及び理論言語学に関する文献を講読し、概念、理論、量的研究法に関する知識を習得する。
授業計画	この授業は講義と演習を中心に行なっていきます。 イントロダクション L2知識の発達について(基礎) L2知識の発達について(応用) L2習得研究デザインについて(基礎) L2習得研究デザインについて(応用) 心理言語学的実験によるデータ収集 コーパスによるデータの分析 論文の検討(1) 論文の検討(2) 総合考察：教育への応用に視点を置いて
履修条件	
成績評価方法	授業への参加度(30%)、レポート(70%)
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	発表の準備、予習、授業中のディスカッションなど。
教材・参考文献・配付資料等	授業中に指示する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	小野 雄一 火:15:00～16:45、他の時間も対応しますので適宜相談して下さい（対面・オンライン） 人文社会系棟B601 ono.yuichi.ga at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	英語学領域の院生のみならず、言語習得研究について学びたい学生の受講を歓迎する。
他の授業科目との関連	

ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	第二言語習得理論、研究法、データ分析方法

授業科目名	言語情報論A
科目番号	02DT981
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春AB 火1
担当教員	石田 尊, 和氣 愛仁, 小野 雄一
授業概要	言語研究を行うにあたって理解しておくべきICT(情報コミュニケーション技術)の基礎的な知識・技能の習得を目的とした演習を行う。
備考	OABAGA0と同一。 対面 状況によってはオンライン（同時双方向）に変更の可能性がある。
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」「5. 総合力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	(1) コンピュータおよびインターネットの基礎、情報のデジタル化、正規表現を用いたテキスト検索等について知識と技能を習得する。 (2) 研究発信方法の多様化を目的として、静止画・動画・音声編集に関する知識と技能を習得する。 (3) 言語データを利用した量的実証研究を行うために必要となる自然言語処理技術、統計に関する知識と技能を習得する。
授業計画	授業はサテライト室で実施する予定だが、状況により変更になる可能性もある。連絡は随時manabaを通じて行う。 イントロダクション コンピュータおよびインターネットの基礎 正規表現を使ったテキスト検索 正規表現を使ったテキストの整形とExcelとの連携 研究発信方法の多様化(講義) 静止画・動画の編集(演習) 音声の編集(演習) 言語の量的研究に関する講義と演習 データの要約と記述について講義と演習 有意性の検定について講義と演習
履修条件	
成績評価方法	授業内の課題(80%)および授業への参加態度(20%)に基づいて判定する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	毎回の授業で相当量の知識を扱うので復習をしっかり行って確実に身につけておくこと。
教材・参考文献・配付資料等	授業中に指示する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	石田 尊 メールによるアポイントメント ishida.takeru.ft at u.tsukuba.ac.jp 和氣 愛仁 随時(要事前連絡) 人文社会学系棟 B612 (内)4420 waki.toshihito.fn at u.tsukuba.ac.jp 小野 雄一 火:15:00～16:45、他の時間も対応しますので適宜相談して下さい（対面・オンライン） 人文社会系棟B601 ono.yuichi.ga at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞ	コンピュータの初歩的な使用法はマスターしておくこと。

むことや受講上の注意 点等)	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	インターネット, 情報のデジタル化, 正規表現, 静止画, 動画, 音声, コーパス, 検定

授業科目名	言語情報論B
科目番号	02DT982
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋AB 火1
担当教員	石田 尊, 和氣 愛仁, 小野 雄一
授業概要	言語研究をより深めるためのICT(情報コミュニケーション技術)活用法について、履修者の専門分野・問題意識に基づいた実践的な演習を行う。
備考	OABAGA1と同一。 対面 状況によってはオンライン（同時双方向）に変更の可能性がある。
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」「5. 総合力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	(1) 大量の言語データを扱うテキストマイニングに関する知識と、プログラムを利用したデータの自動収集・分析についての技能を習得する。 (2) ICTを活用した研究発信を目的として、著作権に関する知識と、動画を組み込んだコンテンツを制作する技能を習得する。 (3) WWWを通じた研究資源の共有・成果発信等を目的として、CMSを用いたウェブサイト構築およびそれに必要なデータベース設計等についての知識と技能を習得する。
授業計画	授業は普通教室で実施する予定。各自のパソコン（無線LAN必須）を持ち込むことになるので準備すること。問題がある場合は事前に担当教員に相談のこと。（ただし、状況によっては実施形態が変更になる可能性もあるのでそのことも念頭に置いておいください） 言語処理環境の構築と簡単な演習 言語変化の特徴抽出に関する講義と演習 テキストマイニングに関する研究事例と研究法について 研究・教育と著作権(講義) 動画の収録・生成と編集(演習) 動画のスライドおよびwebページへの組み込み(演習) データベースの基本的知識 データベースの設計 データベースの作成と問い合わせ データベースとウェブの連係
履修条件	
成績評価方法	授業内の課題(80%)および授業への参加態度(20%)に基づいて判定する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	毎回の授業で相当量の知識を扱うので復習をしっかり行って確実に身につけておくこと。
教材・参考文献・配付資料等	授業中に指示する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	石田 尊 メールによるアポイントメント ishida.takeru.ft at u.tsukuba.ac.jp 和氣 愛仁 随時(要事前連絡) 人文社会学系棟 B612 (内)4420 waki.toshihito.fn at u.tsukuba.ac.jp 小野 雄一 火:15:00～16:45、他の時間も対応しますので適宜相談して下さい（対面・オンライン）

オフィスアワー等（連絡先含む）	人文社会系棟B601 ono.yuichi.ga at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	コンピュータの初歩的な使用法はマスターしておくこと。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	テキストマイニング，データの自動収集，著作権，動画，WWW，CMS，ウェブサイト構築，データベース設計